
『方言談話資料』における
オノマトペの地域的差異についての考察

川崎めぐみ



名古屋学院大学総合研究所

University Research Institute
Nagoya Gakuin University
Nagoya, Aichi, Japan

『方言談話資料』におけるオノマトペの地域的差異についての考察

川崎 めぐみ

1. はじめに

オノマトペ（擬音語・擬態語）による表現は、音や動き、心情や感覚などを写し取る表現である。より感覚的、感情的、直接的な表現法であり、生活言語である方言の中においては、とりわけ重要な位置を占めていることは間違いない。小林英夫（1932）が「さうした擬容辞を観察することによつて、我々はそこに映じた言衆の心を読むことが出来るのである。擬容辞の活躍は大交通の言語に於けるよりも、片田舎に話される土の香の高い俚語に於ける方が顕著であらう」（234 頁）と述べているように、方言のオノマトペ（擬容辞）は方言の話し手の「心」を反映した表現であると言える。

しかしながら、方言のオノマトペはその資料が少ないことが問題となっている。資料が少ないことの原因は、方言が書き言葉ではなく、専ら口頭によってのみ生きている言語だからである。しかも、オノマトペは幼児語に多く、話し手の幼児性を表すという印象が蔓延しているため、学のない表現として特に一部の文学では避けられてきたという経緯がある。

一方、1980 年前後から談話資料として方言の記録が行われてきており、『方言談話資料』全 10 巻（国立国語研究所編，秀英出版，1978-1987，国立国語研究所サイトにて公開）や『全国方言談話データベース ふるさとことば集成』全 20 巻（国立国語研究所編，国書刊行会，2001-2008）といった資料が存在する。これらの談話資料には、豊富な方言オノマトペが登場し、方言の談話においてオノマトペが多数用いられていることがわかる。

三井・井上（2007）は『全国方言談話データベース』のオノマトペを抜き出し、その特徴を記している。この『全国方言談話データベース』について、「オノマトペの使用には個人差があり、かつ、改まった会話では出現しにくいなど、場面と話題に大きく左右されるとされる。この点この資料は、①話者の条件が等質である」（67 頁）など、この談話の調査が全国で統一した基準によって行われたことを生かして、全国比較に適しているとしている。ただし、三井・井上（2007）がみずから述べているように、「談話データベースから用例を得て分析を行う際の一般的な留意点だが、採集できるのは（たまたま）その談話に現れた例だけであり」（67 頁）、また「個人差や場面差、話題の違いによる影響がどの程度であり、どの部分を地域差と見なすことができるのか、確実に推し量ることは難しい部分がある」（67 頁）。

このことから、今回は『全国方言談話データベース』より少し前の時期に記録が行われた『方言談話資料』を用い、方言談話におけるオノマトペの特徴と地域差を、三井・井上（2007）の結果を踏まえつつ考察することを目的とする。また、オノマトペの記録という意味で、収集したオノマトペを一覧化し、付表としてまとめた。

2. 資料と方法

『方言談話資料』全10巻のうち、老年層の会話の1～7巻を対象とし、オノマトペの全用例を収集した。収録されているのは、青森県、岩手県、宮城県、山形県、新潟県、群馬県、千葉県、長野県、静岡県、愛知県、福井県、京都府、奈良県、鳥取県、島根県、愛媛県、高知県、長崎県、宮崎県、沖縄県の20府県の談話であるが、沖縄県を除き、19府県の表現を収集した。調査されたのは各府県1地点ずつであるため、地域に差はあるものの、府県名で示していく。具体的な調査地点は付表に記してある。

『方言談話資料』は、『全国方言談話データベース』が各県20～40分程度の1つの話題による談話であるのに対し、50分程度の複数あるいは1つ話題の談話が収録されている。多いものだと、山形県が16の話題に分かれており、県によっては多種多様な話題による談話が展開されているものもあれば、とりとめのない「よもやまばなし」が続く談話もある。均質性という点では『全国方言談話データベース』に劣るものの、長めの収録が行われている県が多い。

この『方言談話資料』からオノマトペの語形をすべて拾い、後接する「テ」「ト(ド)」といった要素がないと語として意味が通じないものを除き、オノマトペ単体で語形は示してある。同じ語形が複数回出ている場合は括弧内に出現回数を示した。括弧がないものは1回のみ出現である。そうして収集したオノマトペの全語数は延べ語数とし、強調形(長音「ー」や促音「ッ」による強調の形)及び同語形を除いた語数を異なり語数とした。異なり率は、異なり語数を延べ語数で割ったものである。この結果から、考察を進めていく。

3. オノマトペの使用頻度の地域差

オノマトペが使われやすい地域はあるのだろうか。これは方言オノマトペ研究において関心を集める疑問の1つである。三井・井上(2007)の『全国方言談話データベース』の調査では、各県で現れたオノマトペの数は2例～76例と幅がある。2例というほとんどオノマトペが出現しなかった地点では、オノマトペが使用されにくい地点とすることができるのか。

これを踏まえ、『方言談話資料』に現れたオノマトペの数をまとめた図1を見てみると、延べ語数においては、

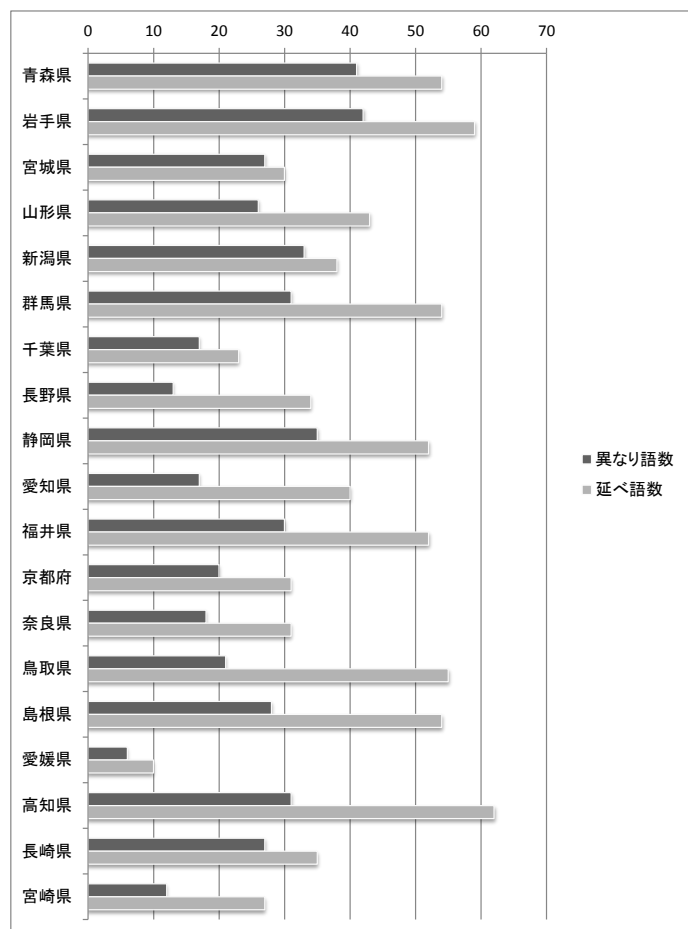


図1 『方言談話資料』のオノマトペ用例語数

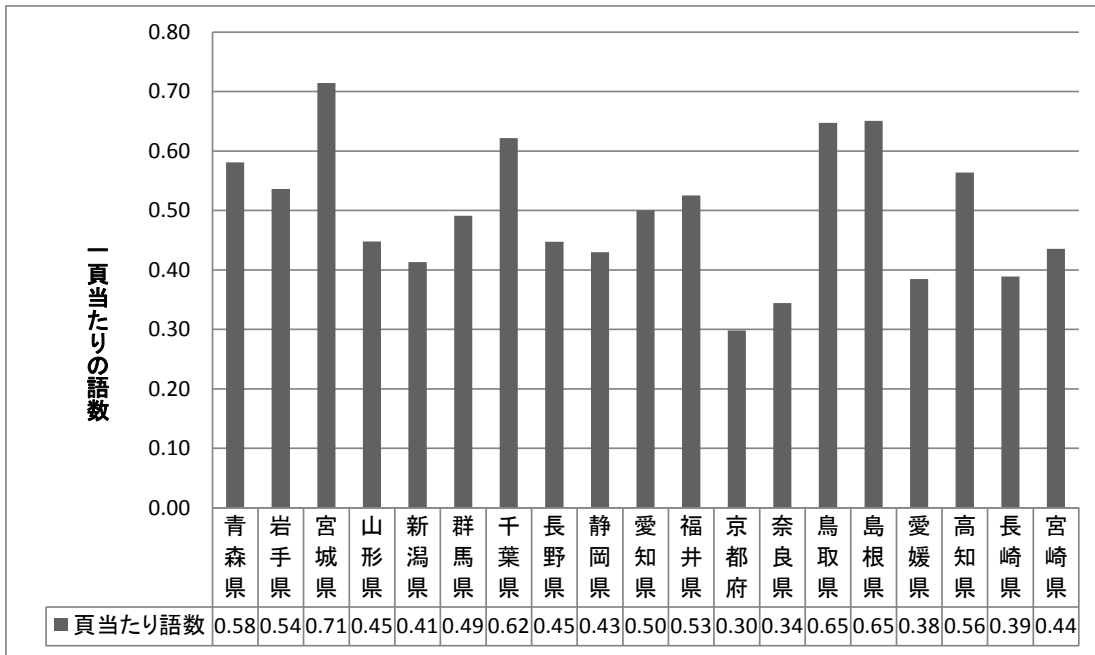


図2 『方言談話資料』 1頁当たりのオノマトペ語数

表1 『方言談話資料』のオノマトペ頻度順位

順位	府県	1頁出現頻度	『全国～』の頻度順位
1	宮城県	0.71	11
2	島根県	0.65	41
3	鳥取県	0.65	24
4	千葉県	0.62	20
5	青森県	0.58	7
6	高知県	0.56	1
7	岩手県	0.54	30
8	福井県	0.53	4
9	愛知県	0.50	17
10	群馬県	0.49	24
11	山形県	0.45	3
12	長野県	0.45	43
13	宮崎県	0.44	30
14	静岡県	0.43	41
15	新潟県	0.41	30
16	長崎県	0.39	—
17	愛媛県	0.38	11
18	奈良県	0.34	16
19	京都府	0.30	7

※三井・井上(2007)で長崎県は調査対象外

愛媛県の10語から高知県の62語と、同様に幅はあるものの、ほとんど使用されていないという県はない。したがって、三井・井上(2007)の調査では、たまたまオノマトペが出にくかっただけと言えそうである。

ただし、用例数(出現語数)のみでは、それぞれの談話の長短がオノマトペの数に影響を及ぼすことが考えられる。オノマトペの使われやすさという頻度は比較できないため、1頁当たりのオノマトペ数を図2に示した。時間当たりではなく頁当たりの語数を示したのは、談話のスピードや空白の時間が入るからというのと、手元に全府県の音源がなかったためである。

図2を見ると、京都府、奈良県において出現頻度が少なめであることがわかる。対

して、東北地方と千葉県、山陰の2県と高知県が若干多めになっているように見える。全体的には東日本のほうが頻度がわずかに高めで、西日本が低めだと言えるかもしれない。ただし、三井・井上(2007)が「地域的な傾向については、例えば、西日本が多くて東日本が少ない、というような単純な傾向は見られない」(76頁)としているとおり、『全国方言談話データベース』では西日本のほうが頻度が高めになっている。『方言談話資料』においては、東日本の

ほうが上位に偏っているようにも見えるが、上位に西日本の島根県があるなど、単純な傾向は見出せないため、東西差は若干のものであるだろう。

図2の出現頻度（頁当たり語数）をもとに、オノマトペ出現頻度の高い順に府県を並べたのが表1である。これに三井・井上（2007）の『全国方言談話データベース』における談話1分当たりのオノマトペ出現数の順位を重ねて見てみると、大きく順位が異なっていることがわかる。やはり、オノマトペをよく使用する話者なのか、オノマトペが出やすい話題なのか、といった要素による影響で、オノマトペの出現頻度が大きく変わってくるようである。

4. オノマトペの多様性の地域差

次に、オノマトペ表現の多様さを表しうるであろう異なり率について見てみたい。図3は、『方言談話資料』に記録された各県の談話におけるオノマトペ延べ語数のうちに占める異なり語数のパーセンテージを表したものである。

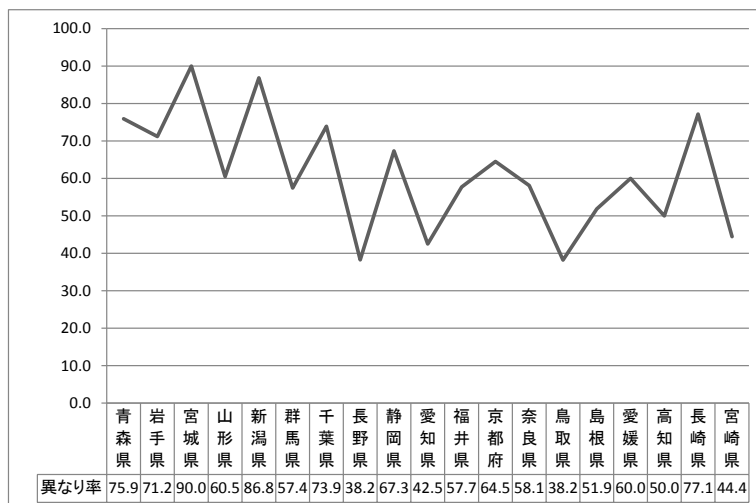


図3 『方言談話資料』のオノマトペ異なり語数

図3からわかるのは、東北地方と九州地方に小さな山ができており、オノマトペの使用に若干の多様性が見られるということである。オノマトペの出現頻度の低かった京都府や奈良県でも、多様さという点では他県に劣らない。対して、出現頻度において上位にあった鳥取県は異なり語数が少なくなっている。全体的には、出現頻度と同様、東日本がやや異なり語数が多く、西日本は少なめであるようにも見えるが、今回のみの結果である可能性は否定できない。

鳥取県において、出現頻度が高いものの異なり語数が少なくなっている要因の1つとして、1人の話者が「ズット」（6回）、「ズーット」（4回）、「ズート」（2回）や「チョット」（12回）という、オノマトペらしさの薄れた語を口癖のように繰り返していることがある。結果、単純な出現頻度は高いものの、異なり率が低くなっているのである。同様に、異なり率が低い地点は「ズット」「ズーット」や「チョット」「チト」等が繰り返し出てきていることが多い。

これらのオノマトペらしさの薄れた語は、本来、オノマトペが様態副詞や結果副詞として用

いられるのに対し、時間関係の副詞、頻度副詞、程度副詞といった分類に入れられるオノマトペ由来と考えられる語である。様態副詞は「ト」「テ」といった後接要素を伴うことが多く、結果副詞は「ニ」が後接する。そして様態副詞、結果副詞のオノマトペは具体的な描写性を有しているのが特徴である。すなわち、動きや状態のありさまを描写し、言及する表現である。一方、時間関係の副詞は動きの時間的なありようを、頻度副詞は出来事の生起の回数を、程度副詞は量を表現しており、動きや状態のありさまに言及しなくなっているものであり、オノマトペの特徴である具体的な描写性を失っている表現であると言える。仁田（2002）では、「ズット」は時間関係の副詞、「チト」「チョット」などは程度量の副詞に含まれている。

ただ、「ズット」は時間関係の副詞とされているとはいえ、「道がずっと伸びている」などでは様態副詞的な側面も持ち合わせているように思われる。これに加え、今回の調査において「ズット」「ズーット」については、さらに千葉県、鳥取県、愛媛県に共通語訳のないものが存在する。次は鳥取県の例である。

鳥取県「1 年行事の話」(6 巻 24 頁)

○ |ソダケー マリュー カガッテ モタシテ ソゲシテ テラニ キテ ウラーモ
 だから まりを かがって 持たせて そして 寺に 来て 私達も
 ヨー ユキオリマシタガ オショーニ ボワレテ モー ズット コリヤーッテ
 よく 行きましたが 和尚に 追われて もう こりゃーと言って
 オショーガ イガールダケ モー ズット ホンニ マリュー カケーテ
 和尚が どなるから もう 本当に まりを かかえて
 トンデ デオッタガナ 《笑》 ホンニ
 とんで 出たものね 《笑》、本当に。

2箇所「ズット」が出てくるが、対応する共通語訳が出ていない。「もう」を強調しているとも考えられ、ここには「長く続いていく様子」を表す様態副詞的な意味も、時間的な継続を表す時間関係の副詞としての性格も見られない。「ズット」単独では具体的な意味を持たず、気持ちを表出するのみの言葉となっている。ここにおいて、オノマトペの具体的な描写性を失っているだけではなく、ある意味ではフィラー化さえしているとも考えられ、口癖としてさらに談話における出現頻度が上がることになっているようである。

5. 語型の地域差

最後に、簡単にではあるが、オノマトペの形(語型)の地域差について見ていきたいと思う。語型とは、オノマトペを形作る枠組みのような形であり、例えば「ぐるぐる」「ふらふら」などであればA B A B型、「びっくり」「すっきり」であればA ッB リ型というように、語音を変化させても維持される型のことである。

この語型について『全国方言談話資料』に出現するオノマトペを見てみると、特に青森県に

において特徴的な型が見られる。AッB型が多く見られるのである。下に青森県のAッB型オノマトペを並べる。後ろの括弧内には、共通語訳あるいは文脈を示す。

青森県 AッB型オノマトペ

ガッパド (布団を被る様子), ジャックド (ずらりと), スッカト (すっかり),
ソックド (そっくりと), ダップド (たっぷりと), ツッパド (じゅうぶんに, いっぱい),
ビツド (びっしりと), ムッタド (いつも)

他県であれば、「ガッパド」は「ガパット」あるいは「ガッパリ」のようにABッ(ト)、AッBリ型で用いられることが多いように思われる。しかし、青森ではAッB型に後接辞「ト」を伴った形がよく用いられていることがわかる。ほかにこのAッB型のオノマトペが見られるのは岩手県だけであり、北東北、特に青森県に特徴的なオノマトペの型であると言えるだろう。

オノマトペの型の傾向は、話し方のリズムやアクセント、イントネーション等に影響される可能性がある。青森市は津軽方言の地域であり、モーラ方言でなくシラビーム方言である。そのような方言の特徴がある程度影響を及ぼしているのではないだろうか。他にも杉村(2001)によると、佐賀県では3連オノマトペ(ABABAB型)が多く見られるという報告がある。『方言談話資料』においては調査地点となっていない。この3連オノマトペは共通語の辞書には載らない形ではあるが、三井・井上(2007)でも取り上げられ、談話では各地で比較的多く見られるようである。3連オノマトペが多く出やすい地域というものもあるのだろうか。他県での例をより詳しく観察し、オノマトペが使用されている方言の特徴との関連性を見出すことが今後できるのではないかと考えている。

6. まとめと今後の課題

本研究においては、『方言談話資料』に出現するオノマトペについて調査を行い、その地域差の一端を見出し、それについて考察してきた。まとめとしては、次のようなことが言えるだろう。

- ① オノマトペの出現頻度は、若干ながら、東日本が多く、西日本が少なめになっている。
しかし、単純な東西差を見出すことはできない。
- ② オノマトペ表現の異なり率は、東北地方と九州地方でやや高めになっており、オノマトペ表現の多様性が感じられる。
- ③ 語型については、青森県に特徴的な型が偏って見られた。青森県では、他県でABッ型あるいはAッBリ型が用いられる語においてAッB型が選択されている。青森県方言のリズムなどの特徴が影響している可能性がある。

以上であるが、『方言談話資料』も各県50語前後の語しか収集できなかったため、明確な結論が得られなかった部分がある。今後は『全国方言談話データベース』や方言辞典等の他の資料をあわせて精査していくことが必要であろう。今後の課題としたい。

参考文献

- 国立国語研究所編（1978-1987）『方言談話資料』全 10 巻 秀英出版（国立国語研究所サイトにて公開）
- 国立国語研究所編（2001-2008）『全国方言談話データベース ふるさとことば集成』全 20 巻 国書刊行会，
- 小林英夫（1932）「象徴の研究と方言学」『國語と國文学』9-2
- 杉村孝夫（2001）「どんどんどの森——九州方言のオノマトペ」『言語』30-9
- 仁田義雄（2002）『新日本語文法選書3 副詞的表現の諸相』くろしお出版
- 三井はるみ・井上文子（2007）「第2章 方言データベースの作成と利用」小林隆編『シリーズ方言学4 方言学の技法』岩波書店

本研究は2014年度名古屋学院大学研究奨励金による研究成果である。

〈 付表 〉『方言談話資料』各府県のオノマトペ

地点	異なり語数	述べ語数	オノマトペ語形
<p>青森県 青森市大字牛館 文字化 93 頁</p>	<p>41 異なり率 75.9%</p>	<p>54 頁当たり 0.58 語</p>	<p>ウツテ (3), ウツト カツツカツツカツ ガッパ ガラガラガラガラ ギュツ グツ グルグル, グルッグルッグル グング ゴロゴロゴロゴロ, ゴロゴロゴロ ゴンゴゴンゴ サツ サツパリ ジャック (2) ジョロツ スッカ, スッカリ ソック ダップ ダンダン (2), ダンダンダンダン (2) チョト ヅット (5), ズーット ヅッパ (2), ズパ ドーンドーン ドツ ドンド, ドンドドンド バタラバタラ (3), バタラバタラバタラ バッタラ (名詞) バッタラバッタラバッタラバッタラバッタラ バラバラ ビツツ ビン ブラブラブラブラ ムッタ ユラユラ</p>
<p>岩手県 江刺市本町 文字化 110 頁</p>	<p>42 異なり率 71.2%</p>	<p>59 頁当たり 0.54 語</p>	<p>ガダガダガダガダガダ カツツ ガツツリ ガバツ ガボガボ ギッチッリ, ギツツリ ギパン ギボン クルン グレグレ コロコロコロ サット (2) サッパ ジョギジョギ ズーット (2), ズットー スポン ソロソロ ダンダン (3)</p>

			チヤント, チャーント (2) チョット (3), チョコット (2) ドカドカ, ドッカドッカ ドガドガドガ ドゴドゴ ドンドン パーン バサッ, バサーッ バジバジバジ (2) ビチョッ (2) フーッ フニャフニャ (2) ベゴーツ ベダベダ (2) ペロット ボドボドボド ボヤーッ ムツツリ モソモソ ユックリ (2) ント (2)
宮城県 亶理郡亶理町荒浜 文字化 42 頁	27 異なり率 90%	30 頁当たり 0.71 語	オウエーッ ガッカリ キリキリ クルクル ササーッ ジリジリ ズーッ, ズート ダラダラ チヤント ツット ツブツブ トローッ ドロドロ (2) スラヌラ ピカピカ (2) ブーン プツッ (2) ベッター ベロベロ ホーテ ボーン ポツッ ポロッ ムクッ モヤン ワー
山形県 西村山郡河北町谷地 文字化 96 頁	26 異なり率 60.5%	43 頁当たり 0.45 語	カツカツ グンクン コッコ (2) ゴロゴロ (2), ゴロゴロゴロゴロ ザグザグ ゾロゾロ ダンダエ (2), ダンダエ

			<p>タント (2), ターント, タンート チェッチェド, チェッチェチェッチェド チェット (2) チャント チョンドシテ ツット, ツーット (3) ツルツル (3) ドエット ドーッサリ ドンード ピリピリ プルプル, プルプルプルプル ペロット ワラワラ ワンク°リン, ワンク°リーン (2) ンート (3)</p>
<p>新潟県 柏崎市大字折居字餅粮 文字化 92 頁</p>	<p>33 異なり率 86.8%</p>	<p>38 頁当たり 0.41 語</p>	<p>ウントコサ ガラグワラグワラ ゲーッ グルグル, グルグルーッ グワシヤグワシヤ コッソリ サー サラサラサラサラ ジャボアーン スースーツ ズット, ズート ストアンストアン ストン (2), ストーン ソヨソヨ タガタガ チット (3) チョエット チョット チョコチョココッコチョコチョコ トアントアン トットトット ドンドンドンドン (2) ヒヤヒヤヒヤヒヤ ヒョコヒョコ ヒリヒリ ピリピリ ブルブル ムツムツムツ, ムツムツムツムツ ユラユラ, ユラユラユラユラ</p>
<p>群馬県 利根郡利根村大字追貝 文字化 110 頁</p>	<p>31 異なり率 57.4%</p>	<p>54 頁当たり 0.49 語</p>	<p>ウント (6), ウーント (5) ウオンウオンウオン ガチガチ ギリギリ (2), ギリギリギリギリ ゲーッ (3) グネグネ ゴクゴクゴク ゴチョコゴチョコゴチョコゴチョコゴチョコ コツンコツン</p>

			ゴロゴロ コロリ コンコン ズット, ズーット (3) ズルズルズルズル ソコカラ ダンダン タント チーット (2) チョット (6) チャーント トート, トートー トットットット バシヤーン バタバタバタバタ ビービー ビショヌレ ピタット ピッピッピ ビリビリ ボタン
千葉県 館山市相浜 文字化 37 頁	17 異なり率 73.9%	23 頁当たり 0.62 語	キッチリ ザフリ ズーット (3), ズーット (2), ズート ストン ダンダンダンダン チャント ツー ドーッ ドローイ ビックリ (2), ベックリ ビッショリ ピョット ホーンホン ホット ヤッサヤッサヤッサヤッサ ユラユラ
長野県 上伊那郡中川村大字葛島 文字化 76 頁	13 異なり率 38.2%	34 頁当たり 0.45 語	ウント (2), ウーント (3), ウーント キリキリキリッ クット ズット (2), ズーット, ズート ソックリ ダンダン (3) チカチカ チャント, チャーント チャット チョット (10) ヒョイヒョイ ペチャット (2) ポロポロ
静岡県 静岡市南字中村	35 異なり率	52 頁当たり	ウッスリ ウント ガブガブガブガブ (2) グラングラン

文字化 121 頁	67.3%	0.43 語	ゴトゴト ゴロゴロゴロゴロ サーーッ ザラッザラ ザンザンザンザン ズーズーズー ズーッ (10) ソーッ ゾロゾロゾロゾロ ダンダンダンダン タント チット, チーッ チャント チリチリー チンチキチンチキチンチキチンチキ テカンテカン トロトロトロトロ ドンドン, ドンドンドンドン ノンビリ (5) パカッ (3) パタパタパタパタ ピーー ピーヒャラピーヒャラ ピーン ビクビクビクビク ビシビシビシビシ ポカッ ポクポクポクポク ポッカリ ローロー
愛知県 北設楽郡富山村中の甲 文字化 80 頁	17 異なり率 42.5%	40 頁当たり 0.50 語	グット ゴサゴサゴサ (2) サッパシ (2) スーッ ズーッ タント チーッ (4), チット チャント チョイ チョット (19) パッ ヒョイ ポッポポッポ ボンボンボンボン (2) ヤーッ ユックリ
福井県 武生市下中津原町 文字化 99 頁	30 異なり率 57.7%	52 頁当たり 0.53 語	ガラガラガラガラ カンカン (2) キッキリコーキッキリコー グリーッ, グリグリ コロット コンコン ザーッ (2) シャッ

			ズーット (2) ズラーット ダーット チット チョット (10), チョーット, チョッコ チョビチョビ チラット トーット (3) ドーット トーント (2) バーント (2) パーント ビブックリ ヒョイト ヒョコント (3) ヒョット ヘトヘト ポイト, ポーイト (3) ポーント ボチボチト
京都府 綾部市高槻町字観音堂・桜 文字化 104 頁	20 異なり率 64.5%	31 頁当たり 0.30 語	ガーット カッチンコ ザーット シツカリ シャンシャン シュツシュツシュツ スポット ダンダン チート (2) チービット チャンコラコンチャンコラコン チャント チョコチョコチョコチョコ チョット (9) チント ツルツル トロトロ ペンペラ ヤット (2), ヤットー, ヤットヤット
奈良県 吉野郡十津川村那知合・谷垣内 文字化 90 頁	18 異なり率 58.1%	31 頁当たり 0.34 語	グサグサ ゴロリン ジット ズーット (2) ズヤズヤ (3) ダーット ダンダン (4) チャント (2), チャーント チョイチョイチョイチョイチョイチョイ チョイッチョイ チョイッチョイ チート チョット (4) ドンドン (2) バリバリ ビーックリ

			ヒョコッ ヒョロヒョロ ボロボロ
鳥取県 八頭郡家町奥谷・上津黒 文字化 85 頁	21 異なり率 38.2%	55 頁当たり 0.65 語	ガー ガッゲゲッゲ ズット (6), ズーット (4), ズート (2) ズルズルベッタリ (2) ダラダラダラダラ チト, チート (3), チートー チャチャ チャント チョイチョイ (4) チョコ チョット (12) ドードドッ ドッケラ ドット バラバラ, バラバラバラバラ ピーン (2) ボロ, ボロボロ (2) ムチャクチャ ヤット (2), ヤットシカ
島根県 仁多郡横田町大字大馬木 文字化 83 頁	28 異なり率 51.9%	54 頁当たり 0.65 語	イッサモッサ グリーッ グルグル ゴット (2), ゴットガ ゴリゴリ ザット サッパリ (2) シヨッシヨッシヨ ズーット, ズイーット (5), ズイート, ズイット ズイラーット (3) ズインド スッポンボンスッポンボン ゾローット ダンダン チト, チート (3) チャント (5) チョット (3) ツイート (6), ツイータ ドーンドーン トットトット ドローンドローン ドンドン パシヤット ブツアーブツア ボチャボチャ ボツボツ (2) ボリーボリー
愛媛県 越智郡伯方町木浦	6 異なり率	10 頁当たり	イエーット シッカリ (2) ズーット, ズート チート (2) チャント, チャーント

文字化 26 頁	60%	0.38 語	チョット
高知県 南国市岡豊町滝本 文字化 110 頁	31 異なり率 50%	62 頁当たり 0.56 語	ウント (10) オーオー ギーコンギーコ キリキリ グジャングジャ グジャングジャングジャングジャン グズングズ (2) グルリット ゴソソゴソ サット ジューツ シャーツ シャント ズット, ズーツ (3) チクト (2), チックト チャント (8) チュント チョット (3) チラリット ドゥラドゥラドゥラドゥラ トゥルリット トーツ ドット ハッキリ ビックリ (2) ビシビシ (2), ビッシリ (5) ピット ビラーン ブット プット (2)
長崎県 西彼杵郡琴海町尾戸郷小口 文字化 90 頁	27 異なり率 77.1%	35 頁当たり 0.39 語	エツト (2) ガスガス, ガスガスガスガス キリキリ クーツ クラット グルツ (名詞) クルリ (名詞) コソコソ ゴリッゴリゴリゴリ ゴロン ザラーツ ジガジガ ズーツツ, ズーツツー, ズーツ (2) ゾロゾロ, ゾロゾロゾロゾロ ダラダラ チーツ (2), チーツー, チッター チャーント (2) チョツチョツチョツ チョツ ドンドンドンドン パラツ バリバリン ファーツ

			フート プランプラン
宮崎県 宮崎郡清武町大字今泉 文字化 62 頁	12 異なり率 44.4%	27 頁当たり 0.44 語	カターンカターン シャンシャン馬 (4) ズーツ, ズーツ (5) チット (3) チーット, チーッタ, チッター チョット (2) チャント ドッサリ ドロドロドロドロ トンカカラン (2) トントンカララントンカララン トント ヒヤートウ